

ママパパ ひるば

63

大学生173人が育児体験

少子化で乳幼児と触れ合う機会が少ない学生らに子育ての実際を知ってもらい、ライフプランを考えるきっかけにと、兵庫県と神戸新聞子育てクラブ「すきっぷ」が協力して進める「一日パパ・ママ体験！～大学生の子育て家庭訪問～」が5年目に入りました。本年度もコロナ対応で件数を絞って感染対策を講じ、2組が訪問しました。

学生は2人一組で家庭訪問。子どもの世話をしたり、保護者の本音を聞いたりする取り組みで、これまで県内10大学から延べ173人が体験しました。

11月に2歳と0歳のきょうだい宅を訪れた神戸教育短大3年の津田若菜さん(21)は3回目。この日は約2時間、おむつ替えを

「一日パパ・ママ体験」で訪問した家庭の子どもを抱っこする学生＝神戸市内



したり、手遊び絵本で遊んだりしました。将来は保育士を志すといい、自身もいずれは出産し、育児をしたいとのこと。「自分の母親以外の子育てを見てみたい」と応募しました。訪問先の母親らと話す中で、子

育ては周囲の支えが欠かせないこと、人の意見に流されず自分の考えを持つ大切さを学んだと言います。

アルバイト先の認定こども園で触れ合う乳幼児とはまた様子が違い、対応の難しさを実感する一方、「ますます子どもをかわいく思うようになった」と振り返りました。

そんな参加学生の変化が伝わるレポートやアンケートは、すきっぷトップページ下部から入れる本事業のサイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

(すきっぷスタッフ 萩原 真)

神戸新聞子育てクラブ

すきっぷ



◆上のQRコードを読み取ると、「すきっぷ」のサイトにアクセスできます。